



この度は、南カリフォルニア岐阜県人会が創立100周年を迎えられたとのこと、誠にめでたうございます。心よりお祝いを申し上げます。

19世紀末から20世紀初頭に岐阜県からはるばる米国・南カリフォルニアへ渡られた先人の皆様におかれましては、言葉のカベや文化・習慣の違いがある中で日系人社会の基礎を築くべく奮闘なされたことと存じます。

また、二度にわたる世界大戦をはじめとする歴史の荒波の中で、異国で暮らす皆様には多くの困難があったことでしょう。

そうした中で、故郷を同じくする方々が集う県人会という組織が、大きな心の支えになったものと推察いたします。

現在、80家族140名の方々が会員となっていらっしゃると伺っておりますが、先人の努力を受け継ぎ長きにわたって交流を続けておられることは、たいへん喜ばしく有意義なことと存じます。会員の皆様におかれましては、今後も、互いの絆を強めていかれると同時に、米国において、ぜひ、故郷・岐阜のすばらしさを発信していただくようお願いいたします。

大垣市は、古くから「水の都」と呼ばれ、その豊富で良質な地下水を利用し県内有数の産業都市として発展してきました。更に現在は、情報関連企業の集積地・ソフトピアジャパンを有し、中部圏のIT拠点となっております。

また、城下町大垣のシンボルである大垣城をはじめとする遺跡・史跡などの歴史資産が数多く残っています。俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた「奥の細道むすびの地」としても知られており、今も俳句文化が息づく文化の薫り高いまちでございます。こうした大垣の個性を活かすため、現在、「奥の細道むすびの地周辺整備」事業を進めており、来年4月には、記念館も完成する予定でございます。

お里帰りの折には、是非、お立ち寄りいただき、大垣の魅力を肌で感じてください。

最後になりましたが、8月28日の100周年記念式典のご成功並びに、会員の皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

2011年7月吉日

大垣市長